

令和8年度 協働のまちづくりチャレンジ事業

団体名：Ponte（ポンテ）

～人の繋ぎめになれますように～



PONTEについて



「人の繋ぎめ」になる。

精神・発達・知的障がいの当事者5名で構成。互いの自己肯定感を高め合える集団として活動しています。

- ✔ 多様な視点: 当事者のリアルの声を社会へ届ける
- ✔ リカバリー: 自身の人生を取り戻すプロセスを共有
- ✔ 共生社会: 地域・企業・学生との新しい接点作り
- ✔ ウェルビーイング: 生きる工夫を共に学ぶ

企画①Our history

~誰かの心にとどきますように~

活動風景



生きづらさがあっても自分らしく生きるためにできることは
～たくさんの出会いからわかったことは～



現状の地域課題と背景

「見えない障がい」ゆえの障壁

- ✓ 1. 働く場の限定
能力に見合った選択肢が少ない
- ✓ 2. 合理的配慮の不足
地域企業への浸透が未だ不十分
- ✓ 3. 誤解と警戒心
見えにくさゆえの心理的距離感
- ✓ 4. 保護対象としての過小評価
「できること」が見過ごされる



創造性 × 公益性

リカバリーストーリー の力

「精神障がい者」というラベルではなく、一人の人間の「人生の物語」を語る。これにより、学生や医療従事者の固定観念を打破し、新しい関わり方のヒントを提示します。

効果：ネガティブイメージの軽減と自己肯定感の向上



第1弾：実施概要

実現性：金沢未来のまち創造館

実施時期	2026年10月（予定）
実施場所	金沢未来のまち創造館
予定講師	ハーブ農園ペザン 眞木様 / エンデパーメイト 山下様 / 福田様（一般就労）
ターゲット	登壇関係者、学生、医療福祉従事者

コミュニティ・マーケティング戦略

協働性の深化

1. 関係者・学生

熱量の高いコア層の形成

2. 実績と魅力の発信

実績の可視化と認知

3. 地域企業の参画

「自社も関わりたい」への変容

意図：学生や専門職を「強力な資源（コンテンツ）」として育成し、彼らが活躍する姿を見せることで、地域企業を巻き込む「外堀から埋める」アプローチです。

企画② 回復とスポーツ

～統合失調症と診断された僕が日本代表のピッチに立つまで 精神科医と語る『回復とスポーツ』～

アジア連合日本代表



100人に1人という事実

1 / 100

統合失調症は、誰にでも起こりうる身近な病気です。

だからこそ、特別な支援だけでなく「スポーツ」や「対話」といった当たり前の日常の中でのリカバリーが必要です。私たちはその「きっかけ」を可視化します。

協働性 × 発展性

スポーツを通じた 社会参加の創出

精神科医と当事者の対談形式。統合失調症においてスポーツがいかに回復（リカバリー）のきっかけになるかを探求し、ソーシャルフットボールの認知拡大を目指します。

講師：岡部病院 理事長 前田義樹先生 精神保健指定医
精神科専門医・精神科専門医師指導医
日本老年精神医学会専門医・指導医
日本医師会認定産業医
認知症サポート医



事業スケジュール

準備期

会場予約・チラシ作成・告知
SNS紹介

10月

講演会Our history 実施
リカバリーストーリー

12月

対談イベント 実施
回復とスポーツ

1月～

効果測定・追跡調査
報告書作成・成果発表会

追跡調査による実効性の評価

1ヶ月後の「差分」を見る

イベント直後と1ヶ月以内の2回アンケートを実施。行動変容を可視化します。

- ✓ 学生の不安解消度合の変化
- ✓ 当事者の外出・社会参加回数
- ✓ 地域住民の意識継続状況(ネガティブなイメージの変化)

リアルな声の収集方法(イベント以外)

- 1.協力関係のある医療機関・福祉事業所（就労移行支援事業所、地域活動支援センター等）にアンケートを常設。スタッフと連携し、日常の中でのニーズを継続的に回収します。
- 2.ヴィンセドールルミナスの日々の練習やクラブ運営の場そのものを、声を集めるフィールドとして位置づけます。

イベント後のコミュニティづくり

発展性：持続可能な「居場所」へ



フォローアップ

参加者への当日の様子をまとめたフィードバックやSNS発信。イベント後の変化を共有し、繋がりを維持します。



サードプレイス開放

Ponteの通常活動を「オープンな居場所」として開放。誰でもふらっと立ち寄れる場を創出します。



ピア活動と役割

参加者が運営を手伝うなど「役割」を持つ仕組み。支援される側から共に作る側への変容を促します。

※「イベント」をきっかけに、「日常的なコミュニティ」へと昇華させ、当事者の自己肯定感と社会参加を継続的に支えます。

費用対効果（予算計画）

総予算：¥76,477

科目	予算額	摘要
謝金	¥25,000	12月講師謝金
消耗品費	¥35,000	事業用品・インク・用紙等
会場・使用料	¥10,060	未来のまち創造館 会場代
その他	¥6,417	交通費・印刷・保険・通信運搬費

※少額で最大の社会的インパクトを狙う効率的な予算配分です。

今後の展望（発展性）



来年度へのステップアップ

- ✓ 出番の創出: 講演メンバーを増やし、企業・学校・病院での機会を拡大。
- ✓ コミュニティ化: ソーシャルフットボールに関わるサポーターの定着。
- ✓ 2部制の開催: 次年度は「交流会＋講演会」のハイブリッド開催を計画。

ご清聴ありがとうございました

Ponte～人の繋ぎめになれますように～